

- お腹の中でお母さんや周りの声を聴いたり、お母さんの感情を感じたりしているといわれています。

## こどもの言葉の発達段階と



## マタニティ

## 音楽の発達段階

- お腹にいる頃にお母さんが聴いていた音楽を聴くと、ぐずっていても泣き止む、笑う、おとなしくなる、という話をよく聴きます。

音伽舎

鈴木美美子

「クラシックは胎教に良い」と言われるのは、音楽には心をほぐして柔らかくする力があるからです。とくに、出産前までお仕事をしていた方は、お仕事モードの心から子育てモードの心になるのに時間がかかることがあります。お仕事に対応した心と子育てに適した心は、想像以上にギャップがあるものです。ですから、マタニティのうちに、ぜひ、生の音楽を聴いてゆったり過ごす時間を持っていただきたい。お腹の赤ちゃんが動く様子を感じたり、「子守歌」を聴いて出産後の暮らしに思いを馳せたり、そんな時間を過ごしながら、心の準備をしていくことが、とてもとても大切なんだ、と思います。

- お母さんや周りの人の話しかけを、身体に溜めていっています。
- 音や流れとして、言葉をまるごと取り込んでいます。
- 話しかけられる内容も、かなりわかっているとされています。
- 「アー」「ウー」「ウクン」などの声(喃語)を出しながら、発声器官の準備をしていきます。
- 絵本は、ハッキリした絵だけのものか、単語一つや擬音語などのもの。

- 言葉を言う前に、指差して示す時期があります。
- 早ければ1歳前から、「ママ」「マンマ」「ブーブー」など、発音しやすい単語が言えるようになります。
- 模倣をよくする時期。新しい言葉を覚えると何度も言ったりします。
- 「○○ちゃん」とお名前を呼んだ時、手をあげて応えられるようになります。1歳半を過ぎると、「ハイ！」と言いながら手をあげられるようになります。
- 早い子は、二語文(「ワンワン、ター(犬が来た)」など)が言えるようになります。

## 0歳 1歳

ねんねの時期はとても音に敏感ですから、静かなゆったりした音楽を聴くのがいいようです。

音楽を聴くと寝てしまうことも多いですが、眠っていてもちゃんと音楽は身体に入っています。

4, 5ヶ月頃から、8ヶ月頃にかけて、全身が耳になったかのように、音楽を聴く様子が見られますので、初めてのお母さんは「こんな風に聴くとは思わなかった」と、みなさんびっくりします。

この集中は、この時期だけに見られるものです。

曲に合わせて、身体を揺すったり、リズムをとったりしてあげると、とても喜びます。

8ヶ月頃までに生のクラシック音楽を聴き始めた赤ちゃんとは、1歳過ぎてから聴き始めた赤ちゃんとは、その後の音楽の入り方が違う...と、経験上、感じていました。近年の赤ちゃんの研究で、8ヶ月頃までに使われない脳細胞はその後減っていく...ということがわかったそうです。どのような環境で生まれた赤ちゃんも、その環境に適応して生きていくための人体の神秘です。音楽を聴く耳を育て、音楽を楽しむ暮らしを過ごすために、0歳からぜひその環境を与えてあげてください。

このようにして育ってくると、早い子は1歳ぐらいから、音楽に合わせてリズムをとったりします。聴きなじんでいるメロディーなら合わせることができるのです。

歩けるようになって、しきりに動き回る時期がありますが、それでも耳は音楽をとらえていて、ちゃんと身体に入っています。

歩けるようになると、歩いて歩いて一時も止まらないような時期があります。心臓がまだ未熟なため、歩くことで、重力に逆らって血液を心臓に戻しています。専門用語で「ミルクキングアクション」という現象です。そのため、「じっとしてなさい」ということはできないので、「歩いててもいいよ」「耳はちゃんと音楽を聴いてますよ」というと、お母さんも安心していただけるようです。そんな時期でも、楽器の音にふっと足を止め聴いている様子に「この子も、じっとしていただけるのね!」とお母さんに驚かれたこともあります。また、0歳から参加しているお子さんは、この時期でも、静かに聴けることも多いです。「音楽はお母さんのおひざで」というのが習慣になっているからのようです。

- 1歳までほとんど喋らなくても、2歳を過ぎてとつぜん話し始めるタイプの子もいます。
- 吸い取り紙のように何でも覚える時期。言葉も爆発的に増えます。
- 誰かが楽しそうにしているとすぐ一緒にのって遊びはじめます。
- 少し長めのお話が聞けるようになってきます。きれいな色の絵本、言葉がきれいな絵本がオススメ。

- 数を数えられるようになってきます。はじめは唱えることができても、意味はわかっていません。数の意味は後からわかるようになります。
- 色もだんだんわかるようになってきます。
- 物語的なもの、主人公の気持ちがわかるようなものが聞けるようになってきます。

## 2歳

はじまりの歌、おわりの歌を覚えて歌えるようになってきます。  
 はじまりの絵本に合わせて「トントントン(♪)」のリズムを叩けるようになります。  
 一度読んでもらった絵本に合わせて、2回めにはタイミングよくリズムを叩けるようになります。  
 歌をたくさん覚えはじめます。

2歳前になると、急に恥ずかしがりになる時期があります。1歳半頃、お名前を呼ぶと「ハイ！」とハッキリ答えて手をあげていた子が、もじもじとお母さんのうしろににかくれてしまったりします。「恥ずかしいのね～」「いいよ～、そのまま」と、声をかけて、「周りが見えるようになり人を意識できるようになった、という、成長の証ですよ」と、お話ししています。また、2歳は、モンテッソーリでいう「秩序感」の芽生える時期で、ふだんと違うことをすると、ものすごい勢いで泣きわめくことがあります。お母さんは訳がわからなくてホトホト困り果てます。「秩序感」はあまり知られていないので、2歳になると必ずお話しするようにしています。その時が来ると、お母さんは「ははあ、これだな」と思い当たって対処できるようです。

## 3歳

2歳過ぎの「統合」の時期を迎え、3歳になって数と色がわかるようになってきたら、いよいよ音楽あそびのレッスンが始められます。  
 「なす」「りんご」「にんじん」など身近なもののカードを使って、「♪」「♫」「♬」のリズムうち。お店屋さんごっこに発展します。ドーナツを指さして、「いーち、にーい(♪)…じゅーいち(♪)、じゅーに(♪)…」と30までの数を一緒に数えます。無意識のうちに、拍の刻みの感覚を身につけることができます。

2歳のある日、音楽にもお話にも目を輝かせて集中して、聴き入るようになる時がやってきます。その様子は何度迎えても感動的で、「ちゃんは今キタね！」と、講師どうし喜び合います。生まれてから吸収してきたすべてのものが、その子の個性でひとつにまとまり内側から輝き出すような感じです。周りのおとなは、いいものを丸ごと繰り返して与え、子どもの気持ちに沿って環境を整えながら、この時が来るのを待つ必要があります。それまでおとなに受け入れられて育ってないとこの統合はなかなかありません。「三つ子の魂百まで」はこの大切さを示していると思います。

- クレヨンなどを上手に持てるようになります。
- 数字やひらがなに興味を持ち始めます。読める数字やひらがなが出てきます。
- 読めるひらがなから、モノやイラストなどをヒントに、読めない文字も読んでいきます。そして、読める文字が増えていきます。

- 絵本が読めるようになってきます。
- ひらがな、(カタカナ)、が書けるようになってきます。
- もちろん、もっと早くから読み書きができる子もいますし、小学校に入っても、おぼつかない子もいます。「読み」「書き」の能力に関しては、子どもの興味を促したり、惹き出したり、という環境によることが大きいのです。

## 4 歳 5 歳

「ドーナツ」と言いながら「♪」のリズムをたたけるようになってきます。3歳では口で「ドーナツ」と言いながら「ドー」で「♪」をたたき予備練習をしてきました。

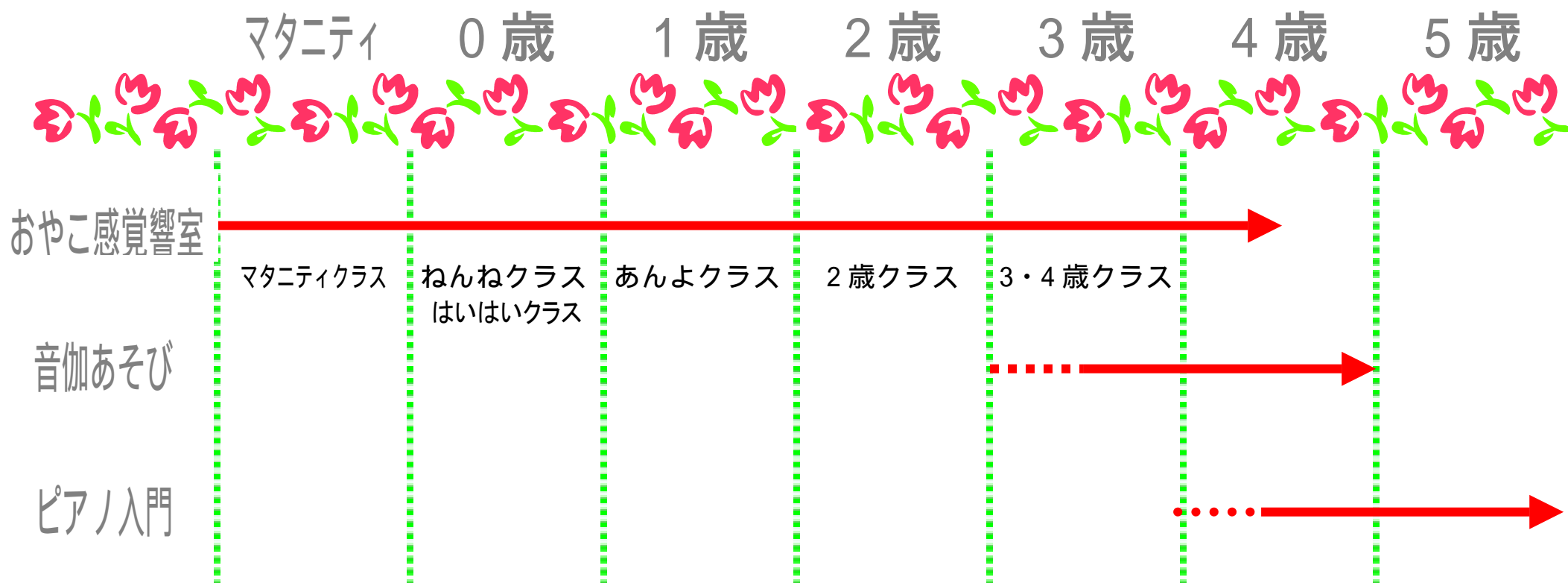
「ドレミ…」は、色音符で覚えます。シールを使って貼っていきます。指と頭をつかう作業ですが、子どもはシールが大好きなので頑張ります。

既に「ドレミ…」の音名と鍵盤の位置もわかっているし、4分音符、8分音符のリズムも叩けるようになっています。

楽譜を読むことはピアノ入門のレッスンに入ってから習いますが、それまでに知っていることと結びついて、すらすら読んで歌って弾くことができます。一度のレッスンで何曲も譜読みして弾くことができます。

3歳までに丸ごと覚えたさまざまなことの、つながり、関係性を発見していく時期です。果物のりんごと、「りんご」の文字が同じ意味だと認識するのは、子どものそれまでの意識からいうと、かなり高度な抽象の認識です。音楽では、実体のない「ドレミ…」という音名と、鍵盤の位置と、楽譜の音符が一致する、というのは、ましてや、それに指を動かす動作がつく、というのは、どれほどたいへんなことか。おとなの意識ではわからなかったですが、0歳からの育ちをずっと見てきて、初めて思い当たったことです。

楽譜を使うレッスンの前に、ドレミの音名にかなり慣れておくといいです。そして、鍵盤の位置との符合も、あらかじめ、時間をかけてやっておきます。いよいよ楽譜を読むには、やはり、数字やひらがななど、「文字を読む」という頭の使い方をしてきてからの方がよいようです。ドレミ…と順番に数えるのではなく、色音符や音符カードなどを使い右脳にインプット。あらかじめ、考えないで反射的に読めるまでにしておきます。指の動かし方も、あらかじめ準備しておきます。



## おやこ感覚響室・音伽のサロン

おやこ感覚響室は、音楽とお話を核に、発達段階に合わせてカリキュラムを組んだレッスンです。音伽のサロンは月例で各地で開かれる60分～90分（会場により異なる）の会。司会、ゲスト演奏（フルート、ヴァイオリンなど月替り）、ピアノの3名が参加。モンテッソーリ乳幼児講師など特別講師が参加する会場もあります。

## 音楽あそび

絵本やパネルシアターなど、子どもたちが親しんできたもので導入し、音楽の感覚を身につけるレッスンです。保育士とピアノの2人ペアで講師。はじまりの歌の後、お話やピアノ演奏を聴く時間もあります。オリジナルのあそび教材をつかって、お家でもお母さんと一緒に遊べるよう工夫されています。カリキュラムは鍵盤あそびまで。月2回のレッスン。

## ピアノ入門

楽譜を読むようになってからが、いよいよピアノのレッスンです。ピアノの先生とふたりで、お母さんにも手伝ってもらいながらレッスンします。お母さんにピアノの経験がある場合、連弾をすすめています。親子のコミュニケーションにもなり、とても楽しいものです。月3～4回のレッスン。